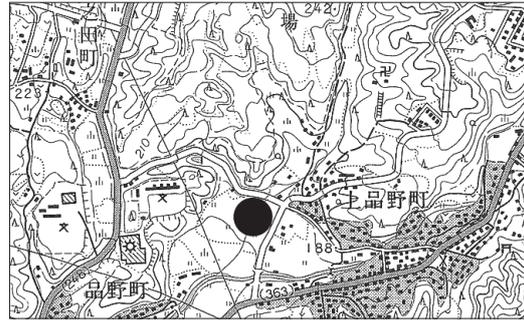


かみしなの かにかわ
上品野蟹川遺跡

所在地 瀬戸市上品野町地内
調査理由 国道 363 号線改良
調査期間 平成 12 年 1 月～3 月
調査面積 1,000 m²
担当者 北村和宏・宇佐見 守・魚住英史



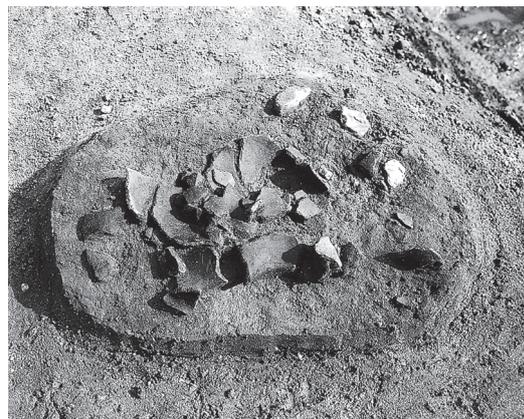
調査地点 (1/2.5 万「多治見」)

調査の経過 上品野蟹川遺跡は瀬戸市上品野町に所在する縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。本遺跡は水野川流域に広がる品野盆地の北東に位置し、標高 180 m 程の沖積地に立地する。平成 7 年と 10 年に (財) 瀬戸市埋蔵文化財センターにより発掘調査が行なわれ、自然流路・杭列遺構・掘立柱建物・溝などの遺構が確認されている。周辺の遺跡としては、本センターが平成 8 年度から 10 年度にかけて調査を実施した上品野遺跡などがある。本調査は国道 363 号線の改良工事に伴う事前調査として、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。

調査の概要 調査区は北東部の丘陵斜面と北西部から南部に広がる自然流路に分かれる。遺構としては山茶碗が出土した土坑などを丘陵斜面で検出した。調査区の大部分を占める自然流路の埋土は長年の土砂の堆積により複雑な層位をしていたが、概ね旧耕作土下の黒褐色土から山茶碗・施釉陶器・木製品など鎌倉から室町時代の遺物が、それからさらに 1 m 程下の青灰色粘質土直上から須恵器・土師器など奈良・平安時代の遺物が出土した。その他の遺物として丘陵斜面上の黄褐色砂礫層から戦国時代の施釉陶器が、その下の青灰色粘質土直上から縄文時代の石鏃・剥片が出土した。
(宇佐見 守)



調査区全景 (北東より)



遺物出土状況 (北より)